

# せとまちトーク進捗管理シート

山口 連区

テーマ

買い物支援

## 課題・問題点の背景・理由

- ・スーパーの撤退
- ・免許返納
- ・高齢化の進展
- ・核家族化
- ・コミュニティバスのルート問題

## 解決手法

【行政】

【地域】

【その他】

- ・財政支援
- ・車両提供
- ・規制緩和(道路交通法)
- ・巡回販売(車の運行)
- ・注文販売

- ・運転手(スタッフ)の確保
- ・スタッフ養成
- ・規制緩和(衛生上)

## 関係する常任委員会

都市活力委員会

## せとまちトーク後の経過、及び調査検討結果

交通空白地に対する一つの方策として「住民バス」がある。実行に移すには市との協議が必要である。

高齢化、免許返納、コミュニティバスのルート問題、買い物支援などの問題解決策として(公共交通空白地有償運送、福祉有償運送)などがある。菱野団地「住民バス」はその事例である。

その条件は以下の通り

- ・輸送サービスを行う場合の条件=NPO法人、非営利の法人格(自治体、町内会)
- ・車両の費用=市から車両の購入費、車検等の法定費用、任意保険について補助を受ける
- ・道路交通法上の手続き
  - ①地域における関係者の合意(法定協議会又は地域公共交通会議又は運営会議)かつ
  - ②道路運送法に基づく登録(地域を管轄する運輸支局等)
- ・運転者=第二種免許又は大臣認定講習を受けた者
- ・運転者への支払い=運転者(ボランティアを含む)への人件費や報酬の支払いも可
- ・輸送の対価=利用者は、所定の対価を支払う、対価は一定の制限あり(非営利と認められる実費の範囲以内である事が求められる)
- ・助成=市から補助や支援を受けるに当たり制約はない

瀬戸市地域公共会議においてコミュニティバス運行協議会があり、本地線・上之山線の運行に係る意見交換等を行っている。

なお、コミュニティバス予算については、令和4年度以降、瀬戸市一般会計から瀬戸市地域公共交通会議に編入されることとなり、公共交通に関するお金の流れの全体像が、瀬戸市地域公共交通会議でより把握できるようになる。

## 【補足】

菱野団地「住民バス」の成り立ちまでには団地内に多様な要望があり合意形成に困難があった。現所把握、アンケート調査、サービス水準の検討、運行主体の選択、運行計画に対しての運輸局、警察等との協議、運行協議会による住民説明会などを行い、住民が自ら短期・長期で取り組むことの優先順位を決定。

住民バスの成功と相乗効果

9人乗りの車両で平均8人前後と極めて高い乗車率、通勤通学の移動より、商店街の活性化や住民同士の交流に対する満足度

運送対価のポイント=今後も無償で運行、自治会総会を経て、乗車しない人も支出